

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立南第三小学校

1. 本年度の学力・学習調査結果の概要について

- ・国語の調査では、A問題の「話すこと・聞くこと」の領域については、昨年同様比較的良好な結果でした。A、B問題共に「書く能力」の観点の問題に課題がありました。
- ・算数の調査では、A問題の「数量関係」の領域の問題は昨年度を上回りました。A、B問題共に「数量や図形についての知識・理解」の観点の問題に課題がありました。
- ・国語、算数の両教科において、情報量が多い問題で必要な内容を整理して趣旨をつかむことに課題がありました。

2. 各教科における成果と課題について

	成 果	課 題
国語 A 〈主として知識〉	<ul style="list-style-type: none"> ・言語についての知識・理解・技能の観点で漢字を読むことについては、概ね良好な結果でした。 ・話す・聞く能力については昨年と同様に良好な結果でした。話し合う活動を取り入れている成果と思われます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語についての知識・理解・技能の観点で同音異義語に注意して書く問題に課題がありました。 ・書く能力について、基本的な形式を理解して手紙を書くなど、実生活で経験の少ないと思われる問題に課題がありました。
国語 B 〈主として活用〉	<ul style="list-style-type: none"> ・話す・聞く能力については、昨年度より約10ポイント上回り、特に目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように話す力についての問題は比較的良好な結果でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文が数ページに渡り、情報量が多い問題では、必要な内容を整理して趣旨をつかむことに課題があると思われます。 ・書く能力について、目的や意図に応じて適切な内容を選んだり、書いたりする問題に課題がありました。
算数 A 〈主として知識〉	<ul style="list-style-type: none"> ・「数量関係」の領域については、昨年度より約23ポイント上回る結果でした。特に技能についての問題は良好な結果でした。 ・小数、整数の加法、乗法の混同した計算を正確にすることができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「量と測定」の領域については昨年度より下回る結果となりました。特に底辺と面積の関係が苦手であるという傾向が見られました。 ・「数と計算」の領域の、計算の仕組みに課題が見られました。
算数 B 〈主として活用〉	<ul style="list-style-type: none"> ・「数と計算」の領域については、昨年度を5ポイント上回る結果となりました。反復して行っている百マス計算などの成果が出ていると思われます。 ・情報の選択と数学的な表現の問題については、整数の範囲の中で2つのものを具体的に計算したり、図で表したりできるものであるため比較的良好な結果でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量の関係の考察と一般化の問題についてはトータルで見ると無解答率が高く、約4ページに渡る図や式の読解に課題が見られました。 ・与えられた情報から答えを選んだ理由を書く問題では、最も正答率が低く、小数で表す割合に課題が見られました。 ・仮の平均の考えを活用して測定値の平均を求める問題では、無解答率が高く課題が見られました。

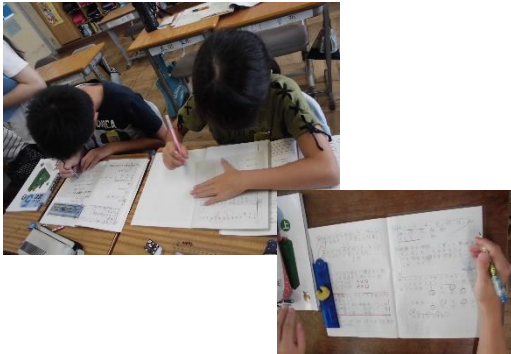
3. 本校の学力向上に関する現在の取組みについて



学習内容の定着（チャレンジプリント）



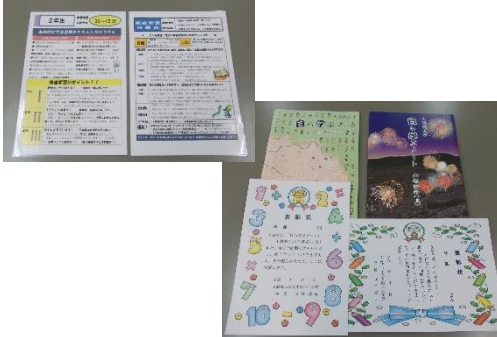
子ども主体の授業（少人数指導）



分かりやすいノート指導



話し合い活動（ペア・グループ）



家庭学習のすすめ



読書活動の充実



ICTを活用した授業



学びやすい環境作り

4. 今後の取組みの方向性について

1. 基礎・基本の学力向上の取組み

- ・基礎・基本の学力の向上のため、算数・国語の時間の最初に日替わりメニューを取り入れています。曜日によって、算数では学習の定着を図る「チャレンジプリント」や「百ます計算」、国語では「音読」や「言葉プリント」、「スピーチ」、「写し書き」など徹底して取り組んでいきます。
- ・朝の読書タイムや、読み聞かせ、図書館司書との連携で工夫した読書活動などを取り入れ、読書指導のさらなる充実を図っていきます。
- ・1年生で、MIM（多層指導モデル）に取り組んでいます。ひらがな、カタカナの特につまづきやすい「特殊音節」に焦点を当てた指導で、定期的に成果を測定し、補充授業を行っていきます。

2. 授業づくりの取組み

- ・どの子にも分かりやすい授業をめざし、授業の流れを掲示し、学習のめあてや見通し、子どもの考え方やまとめ等、その時間の学習内容が分かる丁寧な板書をしていきます。
- ・子どもが主体的・対話的で深い学びができるような授業をめざして、指導方法の研究を進めています。3年生以上の学年では算数の少人数指導を取り入れ一人一人にきめ細やかな指導をしています。また、各教科において、課題に対して自分の考えをノートに書き、ペアで交流したり、グループで話し合ったりする子ども主体の授業づくりをより効果的に推進していきます。
- ・道徳の授業では、道徳的価値を自分事として理解し、多面的・多角的に深く考えたり、議論したりできるよう取り組んでいます。全学年、共通の道徳ファイルを活用し、授業の中で考えたことや、振り返り等を記録し、繰り返し道徳的価値に触れることができるようにしていきます。
- ・パソコンやタブレットPC等のICT機器を効果的に活用し、子どもの学習意欲を高めていきます。

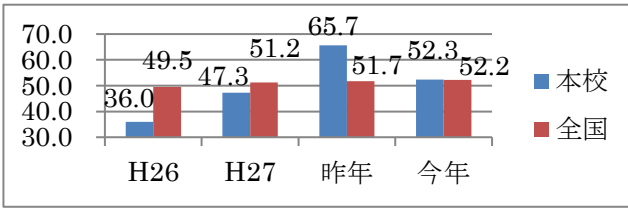
3. 学習環境を整えるための取組み

- ・どのクラスにも共通の掲示物や、発表の手立てとなる話型や学習の足跡となるような掲示をして、学びやすい教室環境を作ります。
- ・低学年を中心に、「さやまっこティーチャー」の活用を行い、学習の支援を必要とする子どもへの働きかけや、様々な専門性を活かした地域の人材の活用をより効果的に行っていきます。
- ・年度初めの家庭訪問で、全家庭に「家庭学習のすすめ」を配布し、家庭での学習の進め方のポイントや、内容について示しています。4年生以上は自学自習ノートをより有効に活用して、意欲的に家庭学習に取り組めるようにしていきます。

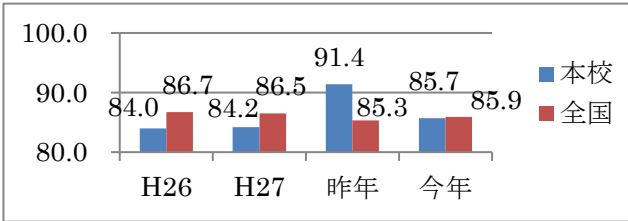
生徒質問紙による学習状況調査結果の概要

1. 取組みの成果があらわれていたり、特徴的であると思われる事項について

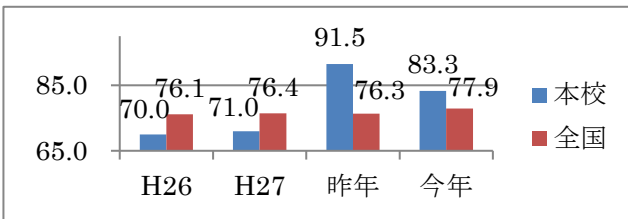
1. 自己肯定感の向上



①「友達の前で自分の考えや意見を発表するのが得意」



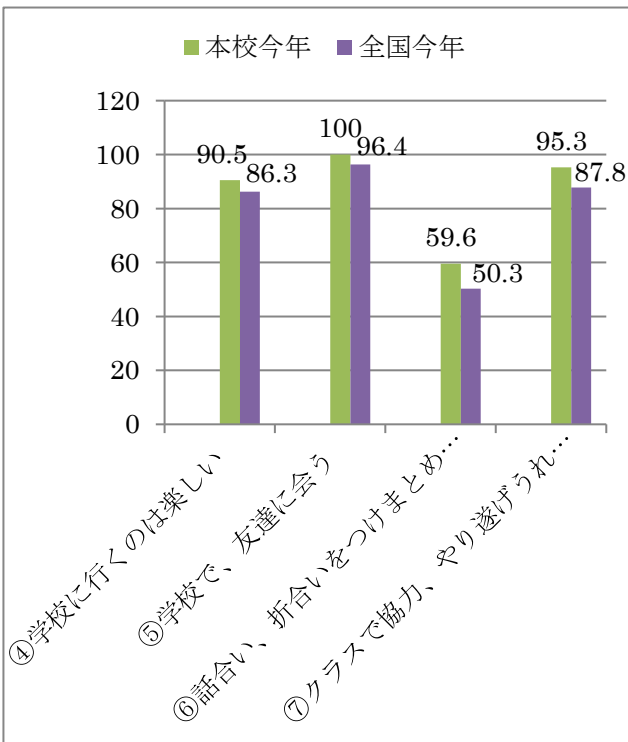
②「将来の夢や目標を持っている」



③「自分には良いところがある」

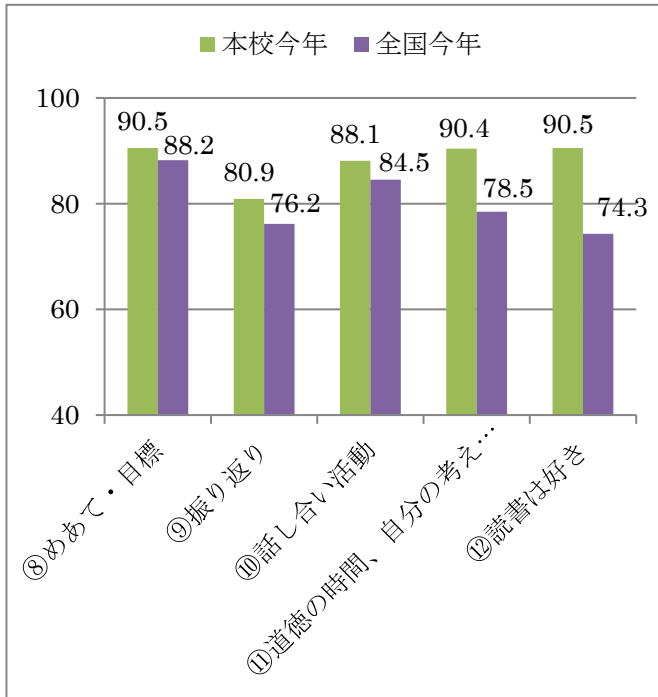
左のグラフ①は「友達の前で自分の考えや意見を発表するのが得意か」、グラフ②は「将来の夢や目標持っているか」という項目の、「あてはまる、ややあてはまる」の合計%の比較です。昨年度は例外的に高い数値を示していたものの、平成27年度以前低い結果でした。しかし、本年度は全国比並みまで向上して来ました。この間、「仲良しタイム」をはじめ児童自らが考え、下級生に関わる場面を数多く設定してきたことで、多くの児童が主体的に粘り強く取り組み、達成感を味わった経験を持つようになりました。また、児童が意見交換したり、発表したりする場面を多く取り入れる授業形態を意識したことも成果の要因だと思われます。その結果、「自分にはよいところがある」と思っている生徒も、全国比を上回る83.3%(グラフ③)になり、自己肯定感を持つ児童の増加が実感できるようになりました。

2. 仲間意識等と学習環境



左のグラフは、「④学校に行くのは楽しい」「⑤友達と会うのは楽しい」「⑥学級会などの話し合い活動で、自分と異なる意見などと折り合いをつけ、意見をまとめている」「⑦学級で協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」という項目の、「あてはまる、ややあてはまる」の合計%の比較です。本校生徒は、それぞれ全国比を上回っています。これら結果より、本校の生徒は仲間意識が強く、互いの存在を大切にしている様子がうかがえます。学校やクラスが、児童にとっての安心で、安全な場になっていることが想像でき、落ち着いて学習できる環境が整っていると思われます。ただ、⑤を除く項目では、否定的な見方をしている児童もいます。全体の雰囲気のみとられず、一人ひとりの児童の様子に気を配り、注意深く見守る必要があります。

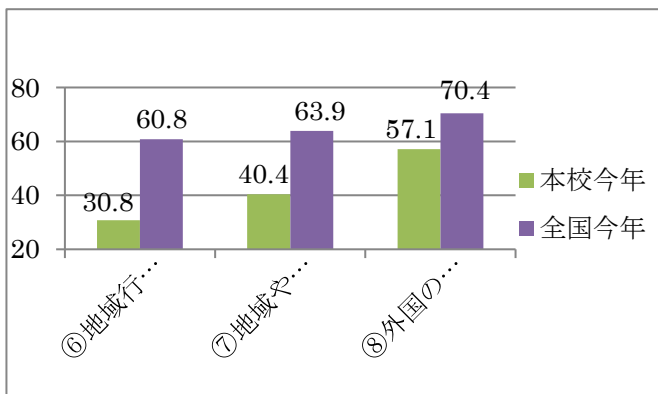
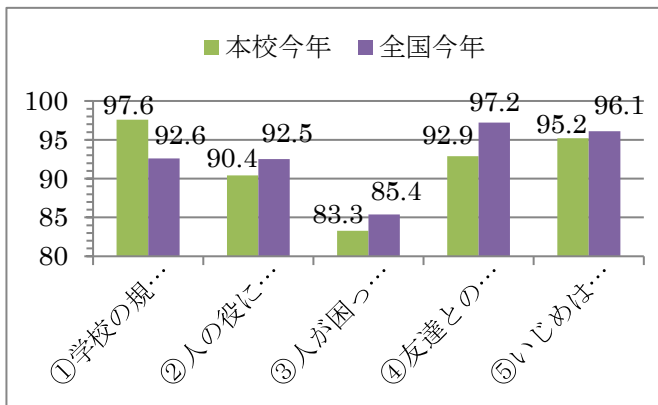
3. 授業に取り組む姿勢や学習に対する意識



左のグラフは、「⑧授業の中で、目標が示されている」「⑨授業の最後に、学習内容を振り返る」「⑩授業で、話し合い活動をよく行っている」「⑪道徳の時間に、考えを深めたり、話し合ったりする活動に取り組む」「⑫読書は好き」に対する肯定的な児童の割合を示しています。グラフ⑧～⑩から、本校が取り組んできた「授業の流れを統一することで、より児童の授業への参加意欲を高める」試みが、一定の成果をあげていることが分かります。また、グラフ⑪～⑫から、校内研修で取り組んだ「道徳教育の推進」や朝読書や読み聞かせを充実させた「読書指導」などを通じて、児童の学習意欲も向上してきたと考えられます。今後も、自分の考えを話したり、まとめたり、発表をする場を重視し、一層、主体的に活動できる児童の育成を目指します。

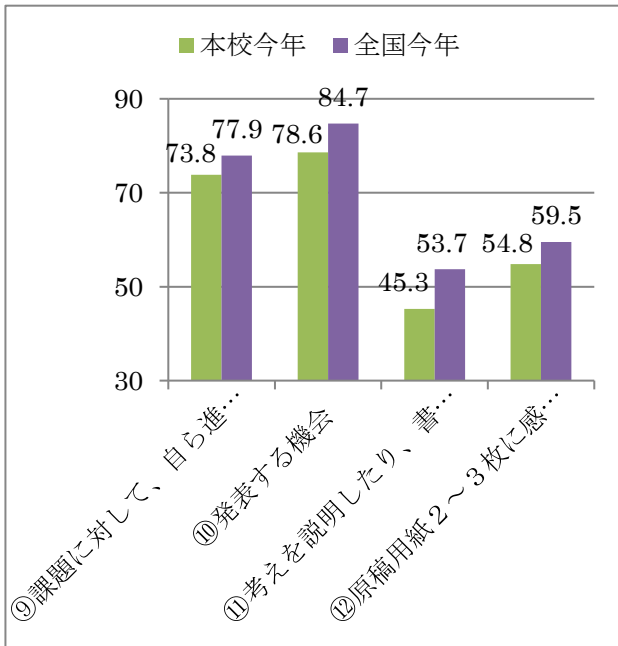
<今後に向けて、課題と思われる事項について>

1. 道徳性や社会性に関して



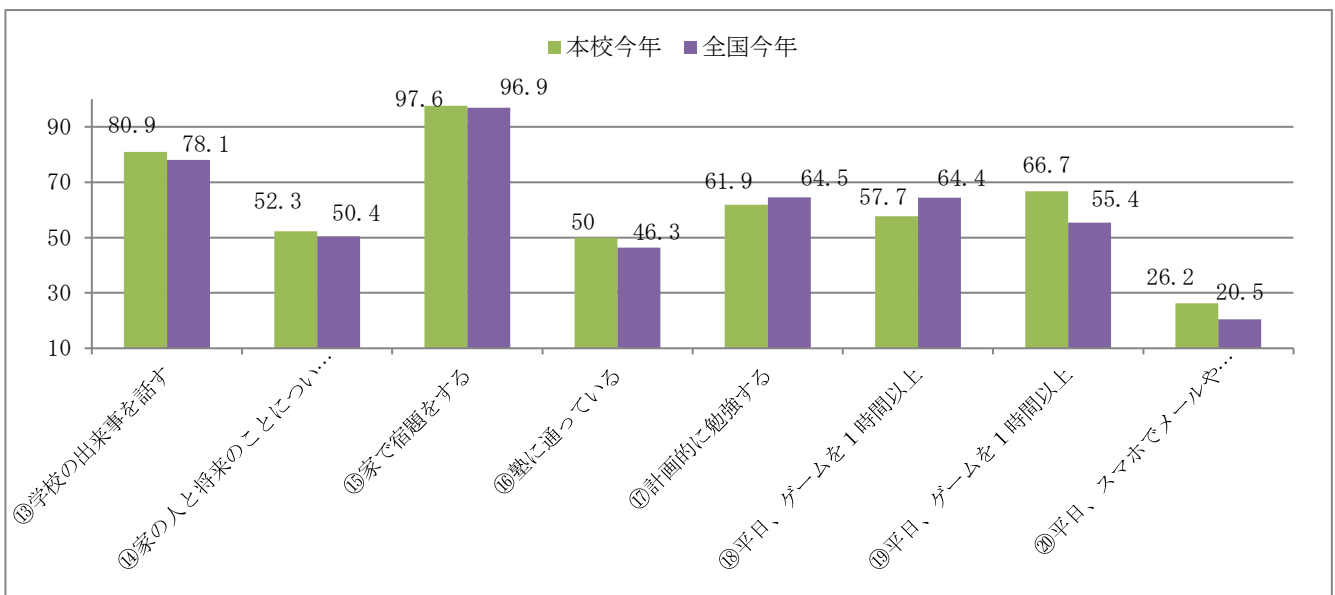
グラフ①～⑤は、「①学校の規則を守る」「②人の役に立つ人間になりたい」「③人が困っていたら進んで助ける」「④友達との約束は守る」「⑤いじめは、どんな理由があってもいけない」に対する肯定的な回答をした児童の割合を示しています。これによれば、本校児童の規範意識は全国平均より高く、また、前述した通り、仲間意識も強い集団です。にもかかわらず、②～⑤の項目の回答から考えると、少人数集団の中で、人間関係や力関係が固定化された面があり、仲間意識や信頼感が希薄な場合があると思われます。また、「⑥地域行事に参加」「⑦地域や社会に関心がある」「⑧外国の人と友達になったり、外国のことを知りたい」などの回答結果によると、社会に対する関心、社会貢献への意識が不十分な児童も見受けられ、一層、道徳教育の推進する必要があります。

2. 授業に関して



成果のところで記した通り、「授業の流れを統一することで、より児童の授業への参加意欲を高める」試みは一定の成果をあげ、グループでの話し合いは活発です。しかし、グラフ⑨～⑫（「⑨課題に対し、自ら考え、自分から取り組む」「⑩発表する機会がある」「⑪自分の考えを説明したり、文章に書く」「⑫原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書く」における肯定的な回答の割合を表す）に示された結果を見れば、短的に気付いたことを話すことはできても、「じっくりと自分の考えをまとめ、発表したり、書き記したりする力」に課題があることがわかります。国語・算数の両教科とも、「教科の勉強が大切」という児童の割合が、全国平均を下回っていることも併せて考えると、勉強すること・学ぶことの意味についても考えさせていく必要性を感じます。

3. 生活習慣・学習習慣に関して



家の人に、学校の出来事を話す児童が 80.9%（グラフ⑬）、将来のことについて話す児童が 52.3%（グラフ⑭）おり、家族との関係が良好な児童が多くいます。家庭学習では、宿題をきちんとする児童が 97.6%（グラフ⑮）、塾に通っている児童が 50.0%（グラフ⑯）おり、家庭学習の意識は十分にあります。しかし、自分で計画を立てて学習している（グラフ⑰）、予習をしている、復習をしている、実際に家庭学習を1時間以上やっている（グラフ⑱）児童の割合は全国比を下回っています。学習に対して主体的に取り組む意識は不十分で、「決められたこと、やらないといけないこと」はするという受け身の児童が多くいます。また、「早寝・早起き・朝ご飯」に関する課題もあります。平日、夜遅くまで、ゲーム、スマートフォン、インターネット利用などで、起床時間や朝食に影響を及ぼし、生活習慣が損なわれるという悪循環に陥っている児童もいると考えられます（グラフ⑲：平日、ゲームを1時間以上する グラフ⑳：平日、スマホでメールやネットを1時間以上する）。また、休日、家庭学習を全くしない生徒が 23.8% もおり、学力の二極化も懸念され、対策を講じる必要があります。

6. 保護者・児童のみなさんへ

〈児童のみなさんへ〉

皆さんは、学校の宿題や授業中の学習態度、清掃活動への参加、あいさつなど、基本的なやるべきことはきちんとできています。また、友達の話や意見なども最後まで聞くことができ、下級生の面倒もよく見るなど、学校の仲間を大切にしています。

これまでと同じように、しなければならぬことはきちんとした上で、今後は宿題以外の家庭学習を計画的に進め、予習・復習などの準備を十分にして授業にのぞむようところがけましょう。また、より安心で、安全な学校・学年・クラスづくりのために、一人ひとりが責任と思いやりの気持ちをもって、「本気」を出してがんばりましょう。

〈保護者のみなさまへ〉

本校の子どもたちの多くは、自尊感情が高く、将来の夢や希望を持っており、自らやるべきことに、真面目に取り組むことができます。これはご家庭で、お子さまの頑張りを認め、ほめて育てていただいている表れだと思います。

今後、子どもたちが授業により前向きに参加するために、家庭学習が宿題のみにとどまらず、予習・復習などを計画的に学習する習慣をつけるよう、ご指導ください。また、ご家族で会話する時間を大切にし、「早寝、早起き、朝ごはん」といった規則正しい生活にもご留意いただき、子どもたちの心身共に健康でたくましい成長を支援していただきますようご協力よろしくお願ひします。